

子どもの声にとことん耳を傾け 今、この時を大切に・・・

～自ら探求する、発見する、体験する、
そして最後までやりぬく子ども～

社会福祉法人 北信福社会
ほくしん保育園



キラキラ輝く笑顔と共に・・・



あなたたちの笑顔は

大人を元気にします

身体いっぱい

五感で感じる今を大切に・・・

“キラキラ”した瞳がくもることなく
いつまでも輝き続けられるよう、

私たちが応援します。

私たちが大切にしたいこと

それは・・・

子ども達が自由に思いを発信し、私たちが受け止め、みんなで考え、形にすること。

幼い頃の不思議や疑問が、驚きや喜びとなり、新たな発見につながるよう、一緒にワクワク・ドキドキの日々を過ごしたい。

心の豊かさは、すぐに目に見えるものではないけれど、少しずつ少しずつ丁寧に積み重ね、自分で考える力を養うことを目的とし、子ども達の関心を興味に変えていきたい。

毎日の何気ない言葉や会話に耳を傾け、受け止めながら幅広い視点で教育を行う保育園でありたいと思う。

新たな変化を生み出せる能力を持つ人材を育てる為に、STEAM教育を取り入れながら創造する力を育み、将来を担う子ども達を私達が育てていく。子ども達一人ひとりがアイデンティティをもち、集団の中で主体的に学ぶことを重視していく。また、クリエイティブな考えができる人材の育成を目指し社会で求められる力を育み、社会と積極的に関わりをもつ事を大切にしたい。



ねえせんせい 土のおいがするよ
きょうの風は きもちがいいね！
たんぽの草がゆれてるよ！



雨が降ると カエルがよろこぶよ！
オタマジャクシから足が出てきたよ！



ダンゴ虫の
おうちをつくってあげよう！

おっきいトマトも作ってみたいな～！
あと…かぼちゃも！



トマトって みどいなんだね！



保育の原点は子ども達の気づき、不思議、なぜ?どうして?から始まる
幼い頃に培った感性が五感を育て、たくましく環境に適応する能力、
生きる力に結びついていく。SDGs (持続可能な開発目標) を日々の目標にし
大切に心を育て、保育に広がりを持ち無限の可能性を引き出していく。

子ども達の不思議「なんで?」「どうして?」あふれる思いを受け止める保育

①疑問・不思議と一緒に調べ、体験してみる

「どうして?」「なぜ?」という子どもの素朴な疑問を逃がさず、
保育者や仲間と一緒に疑問に取り組んでいく

②知恵を出し合う、意見を言い合う

「でもこうすれば、うまくいくかな?」「これならできるかもしれない」
仲間の思いを知り、共感したり発見したりして広がっていく

③過程の中で探求心・意欲を育てていく

「楽しかったね」「また頑張ろうね」「やってみようか?」

「大変だったけれど頑張ってきて良かった」

様々な感情を経験していく中で、成功するプロセスだけではなく、失敗する
事も体験させ、試行錯誤を繰り返しながら、成功へとつながる楽しさを知る。

子ども達の不思議「なんで?」「どうして?」あふれる思いを受け止める保育

なんだろう…



さわりたい!

これなあに?



キラキラ
してる…

実体験を活かした教育・保育

散歩時の地域の方との会話から、「ねえ、おじさん何してんの?」「お米作ってんだよ」「へえ～草なのにお米になるんだってえ?」「この前来た時には、なんにもなかったよね?」子どもの言葉がきっかけとなり、お米と草が結びつかない子ども達に、米作りを体験させたい

①米作りに挑戦してみよう

“やってみたい”という自発性やドキドキ・ワクワクする気持ちを大切にする
⇒発泡スチロールで稲作りに挑戦

②大型プランターを見て、「こっちにも作ったら沢山できるよね」

⇒思い切ってプランターも田んぼにしてみる

③世話をする

⇒大きく生長してほしいという期待感の芽生え

④農家の先生に教えて頂く（通称おじさん先生）

⇒子ども達自身でお手紙を書き、質問に答えてもらう

⑤生長を観察しよう

⇒気づきを大切に、不思議に出会う

⑥収穫してみよう

⇒自分達で育てた稲を収穫し、喜びを味わう



感謝する気持ち・豊かな心情・意欲を育んでいく

ぼくも
やってみたい

こうしてみたら
どうかな？

これはできる
かな？！



うまかったね！

できそうだね！

田んぼ作りからの発展

① 保育園の田んぼに生物を発見した子ども達

ある朝、大あわてで報告・・・

「園長先生～大変！ 保育園の田んぼにいっぱいオタマジャクシがいる！！」



② 保育士も驚きの連続（喜びの共感）

・プランターの田んぼからオタマジャクシ？まさか？！

⇒本当にオタマジャクシが生息



③ 共に喜び共に学んでいく大切さを保育でも学ぶ

・保育園でオタマジャクシを育ててみよう！！

④ 毎日登園すると、カエルになっていないか保護者の手を引いて見に行く姿

・保護者とのコミュニケーション

⇒親子の会話に広がりが見られる



体験を通して、生命の大切さを学び、成功や失敗の体験により新たな気づきを繰り返し、主体的に挑戦していく意欲の芽生え

子どものつぶやき、子どもの気づきが保育の原点

「カエルは産まれた時からカエルなの？」
「オタマジャクシがカエルになるんだよ」
「カエルって田んぼにいっぱいいるんだよ」
「知ってる！！」



日常の子ども達の何気ない会話の中からクラスの子ども達とミーティングを開く



オタマジャクシがカエルになるんだよという言葉で説明



「オタマジャクシをつれて帰りたい！」



園内の水槽でオタマジャクシの飼育に挑戦



成長を見守る過程（プロセス）の中で、
餌・飼育環境を子ども達の発見から気づいていく



大人の言葉で伝える保育ではなく、子ども自身からわき出る
純粋な心の言葉を大切に、意欲の芽を育てていく





実体験に基づいた成長を、年下の子に伝える年長児

オタマジャクシの飼育からの発展

①色々な生物に興味を持ち、小さな命の大切さに気づいた子ども達

「アリさんも生きてるんだから、優しくしてあげないとダメなんだよねえ〜」

「ダンゴ虫だってだよ！」

⇒生き物ごとの特性や発達に興味を持つ中で、
調べてみたいという気持ちが芽生える



②散歩の途中、ゴミが捨ててあることに気が付く

「ねえ！まちがってバッタがゴミを食べて死んじゃうんじゃない?!」

「先生！ゴミ拾ってあげよう!!」

③ゴミ拾いに取り組む

「ゴミ箱にゴミは捨てるってお母さん言ってたよ!!」

「誰が捨てたんだろ？」 「僕は捨ててない」

⇒生き物の住みやすい環境を知る



体験を通して、自然環境の大切さを学ぶ
自分達の住む地域を大切に、住みよい環境を創造していく

STEAM教育への発展 ～科学との出会い～

【STEAM教育とは・・・】

S(Science)	／科学
T(Technorogy)	／技術
E(Engineering)	／工学
A(Art)	／芸術
M(Mathematics)	／数学

子どもの素朴な疑問
⇒科学との出会い



染め出し体験へと発展



「色水作りをして遊ぼう！」

「白、ムラサキ、濃いピンク、水色・・・」

「色ごとに分けてみよう！」

「しぼんだお花でも、色は出るのかな・・・」

「きのうの水は、キノコみたいな変なおいがるよ」

「スプーンでまぜると、キレイな色が出てきた」

「ブドウジュースみたい。のみたくなっちゃうな～♡」

染め出し体験へ



色水を使って
ハンカチを染めてみたよ
でも・・・なんだか汚れた色みたい
色水はキレイな色だったのに。
洗ったら色がなくなっちゃうし。
どうしてかなあ？



「この問題はどうすれば解決できるのか」繰り返しの遊びや学びに向き合う中で
探求心・好奇心・問題解決力・判断力・自発性を養う

今以上にAIやロボットが仕事の多くを担う時代がやってきます。
これからの子ども達は、テクノロジーを使いこなすのではなく、
テクノロジーで様々な課題を解決できるようにならなければなりません。
その為にも、AIの苦手とするクリエイティブな分野「アイディア力」「想像力」
をもつ人材が求められていきます。
好奇心を起点とした学びが、個々の創造性を育み、やってみようという技術、
新たな発想の原動力を生み出す幼児期の体験がもっとも重要であり、
学びに向き合う力・豊かな発想力・想像力への発展へとつながっていく。

柔軟な発想から生まれる素地を育む

見て、聞いて、触れて、
気づく楽しさを知る



模倣遊びから楽しさを学ぶ・
興味関心をもつ



子どもの自信につながる体験・
一緒に活動する楽しさを知る



友達と一緒に
共感する楽しさを体験



仲間意識を深め、
友達との信頼関係を築く



仲間と協力し、
一緒に考えながらチャレンジする中で、
思いを一つにして取り組み、達成感を味わう



疑問
不思議
発見

慈しむ心
生きる力
自己肯定感

学び
探求心
五感の力

今だからこそ
育ってほしい
持続可能な力

おわりに

◎気づきを共有していくことで、「次はどんな発見があるか？」
会話の中から想像が高まり、子ども自らの探索・探求心・
想像力を深め、興味が継続していくよう、園全体で子ども達
の育ちを見守っていきたい

